

いきいき 行田人

農業高校の甲子園で 最優秀賞を受賞

清水

かんな
葉菜さん（18歳・持田）

農業を学ぶ生徒にとってあこがれの舞台である日本学校農業クラブ全国大会（以下、大会）。この大会は、地方予選を突破した各校の代表が農業に関するさまざまな知識や技術などを競い合うもので、「農業高校の甲子園」と呼ばれています。今月は、長崎県で行われた第62回大会の家畜審査競技会で、最優秀賞を受賞した県立熊谷農業高等学校3年の清水葉菜さんを紹介しましょう。

幼いころから花や動物と触れ合うことが大好きだった清水さん。中学卒業後は「大好きな動物について学びたい」という思いから、牛舎などの家畜を育てる設備が充実している同校の生物生産工学科に進学しました。2年生になると、牛や豚など家畜の管理やエズミなどの実験動物の取り扱いについて専門的に学ぶ動物科学コースを選択。動物と直接触れ合うことで動物の生態を肌で感じることができました。

毎年、同校では大会の予選に出場する生徒を募ります。清水さんは、30分間で牛や豚の顔や形を比較・観察し、骨格・肉付き・乳房の形など、



それぞれの部分の優劣を順位付けする競技「家畜審査競技会」に応募しましたが、その時は「どういう牛が、状態がよい牛なのか」という興味しかなかったそうです。予選に向けて、夏休み期間中ほぼ毎日学校の農場に足を運び、汗を流しながら先生と一緒に牛とにらめっこする日々を送った清水さん。その結果、状態がよい牛と悪い牛が見分けられるようになり、初めて出場した予選大会で最優秀賞を受賞。清水さんは、埼玉県代表として全国大会に出場することになりました。

全国大会では、黒毛和牛4頭の各部位の優劣をつけるという課題が出されましたが、黒毛和牛に触れる経験がほとんどなかったため、その特徴を判断する自信がありませんでした。「全力を尽くそうと集中力を高め、落ち着いて競技に臨みましたが、手応えはまったくありませんでした」と清水さんは当時を振り返ります。しかし、予想外の結果が、最優秀賞発表の瞬間、自分の名前が大きなモニターに映し出されたのです。その時は、最優秀賞を受賞した実感がわかなかった清水さんですが、大会後、学校に帰ると先生や仲間が祝福してくれたり、取材を受けたりしたことで賞を受賞した実感がやっとなってきたそうです。

高校卒業後、動物の専門学校に進学する清水さん。「将来は動物園か水族館で働きたい」と幼いころからの夢を語ります。高校での3年間、動物と共に過ごした青春の日々と大会で最優秀賞を受賞したという自信が、進むべき道を手探りで清水さんの背中を後押ししてくれたのかもかもしれません。

私の作品

俳句

持田 丸山 麟一

故郷は大雪なりと便り来し

本丸 諸貫 節子

初霜や白髪まじりの道祖神

緑町 鈴木喜久女

遠き山いよいよ遠し冬霞

荒木 高澤よね子

一隅を染めて肩寄す石路の花

埼玉 杉山 典子

冬日さす障子に影絵初舞台

南河原 今村 文女

三世代集い夕餉のおでん鍋

渡柳 長森 イセ

色変るクリスマスツリー皆笑顔

中里 鯨 美智子

早朝に膝つきて得しふきのとう

持田 田子 敏枝

またサンタ年金暮らし響く婆

城西 八木橋近蔵

散りいそぎせず霜の葉の並木道

持田 伊藤 洋子

煤逃げの夫の散歩はいすこ迄

谷郷 豊田 蓮里

まるい背がめがね落ちて日向ぼこ

城西 新井喜栄子

震災の復興願う除夜の鐘

桜町 吉岡 守子

初日の出里犬の毛はピカピカと

下忍 阿部 義之

介護士にささえられての年の暮

(木島 斗川 監修)



『%ミニ着物』(手芸)
矢口 トヨ(持田)

◎皆さんの作品を募集しています。
◎俳句は毎月5日までにはがき・封書で広報広聴課へ応募ください。



高橋 ゆずちゃん (門井町)
父・伸一さん 母・はるなさん
平成23年2月13日生まれ
「笑顔が似合う元気な子に♡」



新井 大翔ちゃん (南河原)
父・清展さん 母・波留江さん
平成23年2月5日生まれ
「明るく元気な子になってね♡」



山田 琉叶ちゃん (天満)
父・正敏さん 母・衣江さん
平成23年2月3日生まれ
「笑顔の素敵な優しい子に♡」

はじ め ま し て



金子 由樹ちゃん (桜町)
父・裕さん 母・さやかさん
平成23年2月22日生まれ
「すくすくおおきくなあれ♡」



宇野 巧人ちゃん (谷郷)
父・智さん 母・宏枝さん
平成23年2月20日生まれ
「明るく元気に育ってね♡」

平成23年4月生まれのお子さんを募集します

○2月1日(水)~29日(水)に電話またはEメールで広報広聴課広報広聴担当(内線318) ※応募要領は市ホームページをご覧ください。



○応募者多数の場合は、3月5日(月)午前11時から市役所203会議室で公開抽選を行います。

さわやか サークル

囲碁・将棋クラブ

~シンプルなのに奥深い頭の体操~

「人との関わりを増やすこと」という3つの目標を掲げる同クラブ。毎週の活動のほかに、年に1・2回「囲碁・将棋大会」を開催します。この大会は、メンバーと歓談しながらの食事を含め、1日中囲碁や将棋を満喫するというものです。勝負が、実際のところ食事は二の次で、勝負に熱中してしまうとか。「囲碁や将棋は、1つ手を進めることで相手はどう動くのか、常に予想を立てなければなりません。対戦相手との駆け引きを楽しん



でも両方でも、自由に手合わせができるクラブです。定期的に囲碁を打つ場を設けようと、平成10年に囲碁好きな方が北河原公民館に集まり、後に将棋を指すメンバーも加わったことから同クラブが誕生しました。毎月第1・3土曜日と、第2・4木曜日の午後1時から3時まで、月に4回11人のメンバーが、相手を交代しながら対戦を楽しんでいます。

「囲碁・将棋クラブ」は、片方だけでも両方でも、自由に手合わせができるクラブです。定期的に囲碁を打つ場を設けようと、平成10年に囲碁好きな方が北河原公民館に集まり、後に将棋を指すメンバーも加わったことから同クラブが誕生しました。毎月第1・3土曜日と、第2・4木曜日の午後1時から3時まで、月に4回11人のメンバーが、相手を交代しながら対戦を楽しんでいます。



「囲碁・将棋は難しいという印象を持たれがちですが、基本のルールを身に付けば後は簡単です。「上達の秘訣は、好きになることと、継続すること。初めての方もいましたが、数年続けていたら見違えるほど強くなりました」とメンバーが力説するように、対戦を重ねるほど上達するそうです。

経験の有無にかかわらず、囲碁や将棋に興味のある方は、一度同クラブの活動風景をのぞいてみてはいかがでしょうか。シンプルなのに奥深い、そんな囲碁と将棋の世界に魅了されることでしょう。

▼問い合わせ 島田 ☎557-0501